

KYOMI

こだわり三信社員が贈る、興味しんしんプレミアム雑学誌

SIN SIN

第11号

特集1 BEACHSIDE ART FESTIVAL NUTS PARTY

合同会社 prove LiFE (プルブライフ)

特集2 銀座世界料理紀行

びいどろ 銀座店

プレミアムエッセイ

シンガーソングライター さだまさし

単なる音楽フェスを超えて、
現代社会にメッセージを
ぶつけていくような
アートフェスでありたい。



大規模なロック・フェスをはじめ、フードフェスや世界各国のフェスなど、一年を通じて多彩なジャンルが全国で開催される。季節の風物詩となっているフェスも数多くある。千葉市のランドマーク、ポートタワーに隣接する千葉ポートパークにて去る9月1日(日)に開催された「NUTS PARTY」もその中のひとつ。2015年に始まり、今年で10年目となる。当初の来場者は200人ほどだったというが、徐々に認知度も高まり、昨年は4,000人ほどが訪れた。主催・運営のブルーライフ代表山本新一氏は「単なる音楽フェスではなく、音楽・食・絵画などのコンテンツをアートとして捉え、現代社会になんらかのメッセージをぶつけていくようなフェスでありたい。そして、新しい発見と出会いの機会として、一日中思い思いに楽しんでいたければ」と話す。

PROFILE
合同会社ブルーライフ代表
山本新一 Shinichi Yamamoto
福岡県生まれ、千葉県育ち。大学卒業と同時にcafe&bar prove LIFEを設立。同時に、通信、人材コンサルの営業職を経験。「やりたいこと」を「仕事」に変えるライフスタイルに挑戦。2011年6月、著書「働くきみをアゲる18の冒険」(サンクチュアリ出版)を出版。初版12,000部発行。趣味は、音楽、ダンス、サッカー。

こだわり三信社員が贈る、興味しんしんプレミアム雑学誌

KYOMI

SINSIN

Interesting Journal 2024.10 第11号

Contents

特集1

合同会社 prove LIFE(ブルーライフ) P1

千葉県千葉市に在る千葉ポートパークで毎年開催され、今年で10年目となる野外フェス、「NUTS PARTY」。他の多くの音楽フェスとは一線を画す独自のコンセプトとアプローチを掘り下げてお伝えします。

プレミアムエッセイ

文字へのこだわり P9

さだまさし

今回も、さだまさしさんのこだわりのエッセイをお届けします。

特集2

銀座世界料理紀行

びいどろ 銀座店 P11

銀座中央通りでおよそ半世紀にわたって愛され続けているスペイン料理の老舗びいどろ。時代に流されない伝統的な正統派の料理と変わらぬホスピタリティをご紹介します。

【KYOMI SINSIN】とは

「世の中の様々なヒト・モノ・コトに潜む、様々なこだわりに光を当て、皆様の暮らしに“興味しんしん”の豊かさをお届けしたい。『KYOMI SINSIN』は、そんな想いから三信社員が編集長／プレゼンターとなってお届けするプレミアム雑学誌です。



「アートをもっと身近に」をコンセプトに、 千葉市民のための等身大の夏フェスを



進む台風10号にこの数日間、日本列島は翻弄されていた。精度の高い近年の気象予報をもっとしても予測がつきづらい台風だった。房総半島を直撃することもありえた。イベントを楽しみにしている多くの人はもちろんのこと、主催者の合同会社ブルーライフの代表山本新一さんは誰よりも胸を撫でおろしたことだろう。ギリギリまで判断を待たざるをえなかった。「開催中止でも強行しても、いずれも30パーセントくらいの方からご批判を受けます。これはこれまでの経験でわかっています。最後は自分が決断しなければなりません。あとは自分が決断した方を正解にしてください」。そう話す山本代表。安堵の笑顔のなかに不測の事態に備えてのさまざまな準備とご苦労が察しられた。台風の影響は関東地方にもあったものの、最悪の事態は避けられ、イベントは予定通り開催されることとなった。



今回の特集をフェスとしたのはプレミアム・プレゼンターを担当したマンション管理部の小川忠希からの提案だった。小川はレゲエ・ミュージックを聴くのが好きで、お目当てのアーティストを観にこのフェスに参加したという。千葉ポートパークで開催される「NUTS PARTY」は、冒頭でも触れたように音楽・食・絵画など、さまざまなコンテンツをアートとして捉え、来場者に新しい発見と出会いの機会を創造していくことをコンセプトに、今年で10年目とな

「観て」「聴いて」「食べて」「体験する」自由な一日中遊べる参加型フェス

晴れた！それが当日会場入りした時の最初の思いだった。雲は多いものの青空もぞく。2024年9月1日。緑と自然に囲まれ、海風が感じられる千葉ポートパーク。野外イベントは天候に大きく左右されることは言うまでもない。しかしながら、今回は迷走しながらきわめてゆっくりと



るフェス。そこにはアートをより身近に置くことで、心を穏やかにさせ、ワクワクさせ、ハッピーにさせ、人と人とを繋ぐ最良の方法であるという山本代表の考え方がある。毎年10組ほどのアーティストによるライブのほか、一点もののアクセサリやインテリア雑貨の販売、フェイスペイントなどのマルシェや20店ほどのキッチンカー、子どもたちが自由に遊びながら創造力の羽を伸ばせるキッズ・エリアなど、ワクワクするような仕掛けが盛りだくさん。このフェスは誰もが休日を一日中思い思いに楽しめる、年に一度のお祭りだ。



合同会社prove LiFE(ブルーライフ)代表の山本新一さん。千葉県特産のピーナッツと夏と、「いかれた」というスラングからNUTS PARTYを名づけたという。

子どもたちが自主運営するお店で
お金や経済について学んでほしい

東京ドーム6個分もある千葉ポートパーク内の広々とした芝生広場の会場に入ると、若い人たちが中心の音楽フェスとは違



い、ファミリーが多く目につく。そこには子どもたちや連れの愛犬が走り回る光景も。会場奥のステージエリアはお目当てのアーティストに声援を送ったり、踊ったりする人たちが取り囲む。また、会場全体に配置された個性豊かなブースを覗いたり、キッチンカーでお好みのグルメを買いたい、歩きながら食べたり飲んだり、持参したテントに持ち帰って家族や仲間と楽しむ人も。それぞれが自由に自分たちのスタイルで過ごす光景が会場のあちこちで見受けられる。単なる音楽フェスではないこのフェスならではの魅力だろう。

そんな中でも特に面白い試みは、ZOZOの支援を受けて行われていた「こどもマルシェ」。これは事前に応募した地元の子どものためのグループが自主運営するマルシェだ。今年は、遊びながらオリジナルのおしゃれグッズやTシャツが作れるお店や手作りスイーツの販売など3つのブースが出店。いずれも「千葉の魅力を伝える」をテーマに子どもたちがアイデアを出し

あったユニークなお店が並んだ。「僕の仕事への考え方は『遊び』。でも、遊び続けるためにはそこに利益を生み出さなければならぬ。子どもたちにお金のことや経済について、楽しみながら自然と学んでほしい」。子どもたちの世界観が選択肢を広げることを教えてくれること、楽しいことを仕事にしている実践者といえるだろう。





KITCHEN CAR

NUTS PARTYのお楽しみのひとつは
バラエティ豊かな美味しいフード



ブルーライフが保有する4台のほか、キッチンカー専門のポータルサイト「KITCHENCAR'S JAPAN」から今年も20台ほどが出店。窯焼きピザやタコス、BBQフードやスパイシーカレー、ビールや冷たいトロピカルなジュース、たい焼きパフェなど多彩にラインアップ。お店をハシゴしたり、仲間とシェアして楽しむ光景もあちこちで見受けられた。



キッチンカーを出店したい、イベントに呼びたい。そんな両者をマッチング。登録者数日本最大級の約3,500台を誇ります。

みんなが忘れかけている 「自由な世界観」を大切に

9年前の始めた頃と変わっていないことは、「自由な世界観」を大切にしたいイベントだということ。各地で行われるフェスに自身が参加して感じるのは、規制やルールなどのしぼりが多い点だと山本代表。「事前のリスク管理は必要ですし、スムーズな運営のために事細かなルールを設けていることは理解しています。でもこのフェスは、できるだけルールを設けないようにしています。ここに集まるみなさんの善意で成り立つようなイベントにしていきたいんです」。山本代表率いるキッチンカーは、この7月にニューヨークで開催されたジャパン・フェスという日本の食文化や日本人が作るフードの紹介を中心としたイベントに参加した。その時もあらためて自己責任の意識が基本にあることを感じたという。「日本では極力、加害者にならないようにと細かい



ルールが設けられている。海外では自分が被害者にならないように自己防衛の意識が強いと思います。何かあれば多くの人も社会も自己責任だと考えるのでしょ。もちろんルールで自分たちを守ることも大切ですが、もう少し日本も自己責任の意識があっていいのではないのでしょうか。「NUTS PARTY」のコンセプトである「自由な世界観」の裏には、そんなメッセージも隠されているのだろう。



「いたずら心」で、 人を喜ばせたい

2015年にスタートして今年で10年目となる「NUTS PARTY」。イベントを始めたそもそものきっかけは、それまで千葉ポートパークで毎年夏に行われていた千葉市民花火大会が幕張に移ったことだった。「花火大会は、子どもの頃から青春時代を通じて僕たちが楽しみにしていた大切な夏のイベントでした。それが幕張に行ってしまった。残念というか、悔しい思いでいっぱいでした」と山本代表

その時、飲食店を2店舗経営していた山本代表は、自身の飲食の経験を活かし、2つ年上の音楽をやっていた友人と何かここでできないかと考えた。そして、花火大会に代わる夏のイベントを自分たちでやるう！ということになったのだ。「参加する側から、大人になつたいまこそ自分たちが主催する側になろうと考えたわけです」と、山本代表。そうは言っても簡単にはいかなかった。そこは千葉市が所有する公園。ただお金を払えば使えるわけではない。「何を目的にやるのか」、「周辺住民への騒音などの対策は？」『万一の事故やトラブルへの備

えはできているか』などとクリアしなければならぬ問題が山積みだった。行政との綿密な打ち合せやプレゼンテーションを幾たびも重ねた末、なんとか開催まで漕ぎ着けることができた。「僕が何かをやる時はいつも『いたずら心』を持ち合わせています。もちろん悪いいたずらではなく、人を喜ばせることを仕掛けたんです」。山本代表は、笑顔でそう話す。こうしてスタートした「NUTS PARTY」。いまではすっかり夏の恒例イベントとして地元に着し、県外からも多くの来場者を迎えるまでに成長している。

青春の思い出だった花火大会が幕張へ 「自分たちでイベントをやるう」がきっかけ





【特集1】What's prove LiFE.LLC?

今回初めて参加させてもらった「NUTS PARTY」は、プループライフという会社のひとつの事業であると同時に、会社と山本代表の仕事や社会への考え方、取り組

キーワードは「不揃いの統一感」

ンカーの役目だと語る。「会社の設立から10年を経て、自分自身もアップグレードしてきたと自負しています。自分の子どもたちの成長もあり、自然と教育にも関心が高まってきました。その思いは、「NUTS PARTY」の『こどもマルシェ』にも反映していると思います。私たちは、毎日真剣に遊んでいます(笑)」と山本代表。子どもたちが大人になることに希望が持てるように、大人が楽しんでいる社会を作ることが会社のビジョンだという。



社会にとって、未来にとって本当に良いと思うことを表現するアーティスト集団でありたい



「今日はとにかくみんなに感謝!10年目が無事に開催できてサイコー!」と山本代表。

みを集約したイベントだともいえるだろう。社会にとって、未来にとって本当に良いと思うことを表現するアーティスト集団でありたいという代表の思いが、会場の隅々に感じられる。それは楽しく和やかな雰囲気でありながらも、山本代表の『エッジのきいたイベント』であることも感じられた。最後に山本代表の言葉から。「人はそれぞれ大切にしているモノやコトがあります。自分のアイデンティティが独自の感情や情熱を持ち合わせています。プループライフはそういった『個の特色』を磨き続けることで、『集の特色』を最大にすることを大切にしています。私たちは『不揃いの統一感』というキーワードを中心にドンと据えています。個性と調和。自由とルール。理想と現実。大人になるにつれて、そのハザマで多くの人が悩んだり、ある時は挫折したりしながら生きている。山本代表はいつまでも少年の心を持ち続け、仕事という『遊び』に日々挑戦し続けているのだろう。仕事について、ライフスタイルについて、社会の中での会社や自分の立ち位置やバランスなど、あらためて考えさせられる一日だった。



やりたいことを仕事に変える

このイベントを主催・運営するプループライフとは、そもそもどんな会社なのだろう。そのあたりを探るべく、まずは山本代表に仕事とは何か?というストレートな質問をぶつけてみた。「仕事とはお金をいだける遊びだと思っています。もちろん経営者として毎日毎日、雇用や経費、利益をどう確保するかなど数字と向き合い、現実と戦っているのは事実です。遊び続けるにはお金が必要だから、会社は利益を出していかなければいけないという考え方です」。2007年の創業以来、山本代表はその

言葉通り「自らがやりたいこと(遊び)を、社会に必要とされる仕事に変換させる」を基本に企業経営を行ってきた。現在は「NUTS PARTY」の主催・運営をはじめ、さまざまなカタチのイベントを手がけるイベント事業、福島県田村市における地方創生事業、自社が保有するキッチンカーのほか、キッチンカーのネットワークを駆使して展開する飲食事業、日本最大級のキッチンカー専用のポータルサイトを運営するIT事業などを行っている。コロナ禍のさなかにはエッセンシャルワーカーに無料で食を届けたり、記憶に新しい2019年の大型台風の際にはすぐさま被災地に駆けつけた。そんな活動もキッ



サブステージとして活躍するSTAGETRUCK SNUFKiNは、照明・音響・スクリーン完備のオールインワンの移動型ステージ。ここでは一日を通してDJやダンスチームが会場を盛り上げる。



社員のみで構成されているprove BANDが「NUTS PARTY」のエンディングを飾る。

今号は、いま各地で開催されている野外フェスにスポットをあて、主催者の熱い思いと仕事へのユニークな取り組みを探ります。

マンション管理部の小川忠希と申します。私は当社が販売したマンションの管理業務を担当しています。今回、KYOMI SINSINのプレゼンターを担当するにあたり、まず頭に浮かんだのは音楽フェスでした。海沿いをドライブしたり、陽気で心地いいレゲエをBGMに過ごすことが好きで、初めて参加したフェスが印象に残っていたため、主催する合同会社ブルーライフ代表の山本新一様に協力を頂き、「NUTS PARTY」取材しました。山本代表の第一印象は笑顔が素敵な方だということ。お話を伺い、特に印象に残ったことは、「自らがやりたいことを社会に必要とされる仕事に変換する」といった言葉です。ブルーライフは、イベント企画のほか、IT事業、飲食店経営、地方創生など多岐にわたる事業を展開しています。いずれも、人との繋がりを大切にされている姿勢が山本代表の言葉ひとつひとつから自然と伝わり、このフェスへの興味がますます湧きました。仕事とは「単に稼ぐための手段ではなく、心身共に豊かになるための時間と空間」という山本代表の考え方は、「心と生活も豊かになろう」という弊社のフィロソフィーに通じます。

仕事や社会に対する根本的な姿勢は共通するものがあると感じました。居心地のいい空間と美味しいものでお客様に楽しんでもらえたら自分もハッピーだといいます。また、今回のようなイベントを成功させるためには出店者やスタッフ、ボランティアなど多くの関係者の協力が不可欠です。山本代表の人柄や情熱が人を惹きつけ、人望が厚いからこそ実現できるのではないのでしょうか。人柄、情熱、人望はどんな仕事にも共通する一番の財産だと思います。今回の取材で、自分にも参考になる貴重なお話を伺えたことを今後の仕事の糧として活かしていければと思います。是非、ご一読ください。



小川 忠希
マンション管理部

2024.10.1

「PREMIUMシリーズ」は、創業以来さまざまなプロジェクトに参画した経験を結集し、磨き上げた、自社ブランドです。これからも、数多くの土地との出会いの中からふさわしい地を選び抜き、ただ1つのマンションを、丹精を尽くして創り上げてまいります。



PREMIUM



三信住建

●本誌に関するお問い合わせ

Tel.03-3569-1123

営業部門 広報人材開発部 9:00~17:00(年末年始・土・日・祝日は除く)

●WEBサイト

<https://www.kyomisinsin.jp/>●Mail kyomisinsin@sanshinjk.co.jp